

日本学術会議
オープンサイエンスを推進するデータ基盤とその利活用に関する検討委員会
オープンサイエンス企画分科会（第 25 期・第 2 回）
及び同分科会オープンサイエンス・データ利活用推進小委員会（第 25 期・第 2 回）
合同会議議事要旨

1. 日時 令和 4 年 5 月 31 日（火）19:30～21:30

2. 会場 オンライン開催（Zoom）

出席者（五十音順、敬称略）：生貝 直人、狩野 光伸、木部 暢子、喜連川 優、
小安 重夫、武田 洋幸、林 和弘、菱田 公一、溝端 佐登史
説明者：一杉 太郎（東京大学大学院理学系研究科化学専攻教授）

3. 議題

- (1) 前回議事要旨の確認
- (2) 分科会幹事の選出と承認
- (3) 話題提供：「マテリアルインフォマティクス研究に関して」
一杉太郎先生（東京大学）
- (4) その他

4. 配布資料

資料 1：第 1 回議事要旨（案）

資料 2：自律的実験技術を活用したマテリアル DX

5. 議事

- 一杉教授により、自律的実験技術を活用したマテリアル DX「オープンサイエンス、データ利活用の観点から」と題した話題提供が行われた。
 - 機械学習とロボットが科学的知見を生み出す時代が材料科学・化学等の実験系の研究にも到来することを踏まえ、1. データの利活用は、ラボのシステム化とセットで考えることが必要であり、本当に使えるデータの生成に向けて、装置・ノウハウのシェアリングが風穴を開ける 2. 企業を含めたデータ利活用に壁があり、ラボシステムインテグレータが鍵となる 3. 共用施設が世界のマテリアル研究センターになることで、世界がセンターを頼らざるをえない状況を作り出すことが重要である。以上の取組により皆がよりオープンで柔軟な考え方が持てるようにするべきである。
- 以上の話題提供をもとに議論を行った。また、本講演とディスカッションを踏まえ、そ

の要点を答申に含めることで今後の検討を進めることとした

- 一杉先生には今後の委員会にも参加いただき、議論に加わっていただくこととした。
- 次回以降は、東北大の大林茂氏（工学系）、理研の高橋亘一氏（生命科学）、慶応の桜田一洋氏（医療系）に打診することとした。

以上